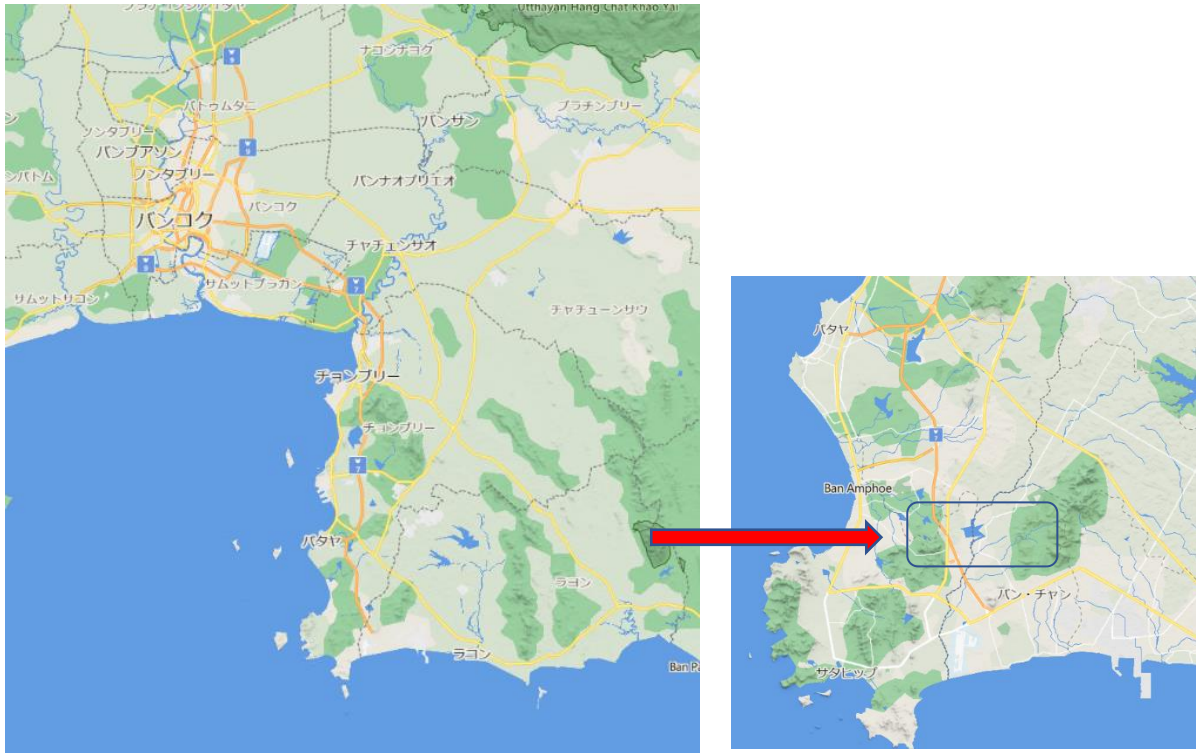


(2) 会 場

Royal Thai Navy Rowing & Canoeing Training Center

タイ パタヤに近い Rayon 県 Ban Chang にあるタイ王国海軍ボート・カヌートレーニングセンターで、施設は、2,000mの6レーンのコース、判定棟、グラウンドスタンドの他に、宿泊もできる艇庫などがあり、敷地内には、カヌーの人工のワイルドウォーターコースもあります。



トレーニングセンター全景

(3) 開催種目

Senior (16 種目) : LW4×、LM4-、LM1×、LW1×、LW2×、LM2×
M1×、W1×、W2×、M2×、M2-、W2-、M4-、W4-、M4×、W4×
Junior (10 種目) : JW1×、JM1×、JW2×、JM2×、JW2-、JM2-JW4-、JM4-
JW4×、JM4×

(4) 参加国 17 国

China, Hongkong China, Indonesia, India, Iran, Iraq, Japan, Korea, Saudi Arabia, Malaysia, Philippines, Singapore, Sri Lanka, Chinese Taipei, Thailand, Uzbekistan, Vietnam

3 審判業務

(1) 参加審判員 以下の 11 国 17 名で審判業務を行った。



(2) 担当業務

11月30日:Umpire 2、Control Commission Responsible

12月1日: Starter/Assistant Stater、C.C In pontoon

12月2日: Athlete Weighing

12月3日: Finish Responsible、Umpire 1

12月4日: Boat Weighing

(3) 各部署の施設

スタートタワーは、写真のとおり、スコールの吹込みによる設備への影響を考慮して、全体が遮蔽されており、スタートエリア全体を見渡すことができないものとなっていた。

次回以降の大会では、改善が求められる。

スタートのシステムは、IMAS社製で、計時システム、艇位置を揃える Raising Start Systemとも連動しているものであった。

World Rowing で採用している Swiss Timing 社製のシステムとは大きく異なるものであり業務前に操作の習熟が必要であった。

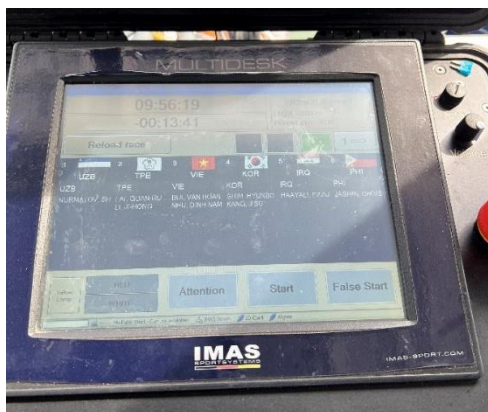
特に、システムの画面に参加国/クルーが表示されており、ロールコール等を行う際には有用であるが、予めレーンが設定/表示されており、スターターが使用レーンの割り当て変更に対応できないものとなっていた。



スタートタワー



スタートポンツーン



IMASスタート操作盤

フィニッシュタワーは、写真のとおり4階建ての建物であり、ミーティングルーム、VIP ルームなども備えており、毎日の Jury Meeting や Team Manager meeting は、1 F のミーティングルームで行われた。



フィニッシュタワー



フォトフィニッシュカメラ



フィニッシュルーム



フォトフィニッシュディスプレイ



中間計時モニター

(4) 審判業務上の事象

① 審判業務上の事象として、ユニフォームについての問題があった。

写真のように、サウジアラビアチームのユニフォームにアラビア文字模様のデザインが施されていて、これが World Rowing のユニフォーム規定に抵触するのでないかとの疑義が生じた。

文字の内容について、セミナー参加のために会場に訪れていたイランの WR 審判員に確認したところ、サウジアラビアの国名の意味だということが判明した。

広告等に該当しないことから、不問として処理した。



② Out Pontoon での監視業務で、トップボールがない艇を確認して、Swift Racing スタッフにトップボールを装着してもらい、出艇させた。

安全にかかわる装備であることから、監視業務では、ヒールロープを含めて、確実な確認が必要である。

脱落の理由は、前のレースにおいて、スタートに向かう際に、回漕エリア付近にあった障害物等に接触し、トップボールが外れやすくなっていた可能性が考えらる。



③ Athlete Weighing の業務では、Athlete の photobook が準備されておらず、

Accreditation Card を確認し、都度、計量対象の athlete の写真を撮って、記録として残した。

④ 監視業務 (Out Pontoon) における確認において、艇に表示しなければならない国名と Asian Rowing の表示ステッカーがあるが、ルールに規定されている要領どおりに貼り付けしていないクルーがあった。今回、このステッカーは大会における艇等の準備/サポートを行う Swift Racing が準備していたが、国名と Asian Rowing のステッカーが 1つのシートとなっており、艇の両サイドに張ると、片側が規定通りの準備とならないことになっていた。



Stroke side (順番が正しくない)



Bow side (規定の通り)

5 ARF Congress

大会に併せて、12月3日に、Asian Rowing Federation Congressが開催されました。

Congressは、毎年、アジア選手権開催時に開催されますが、アジア競技大会開催年には、アジア選手権が開催されないため、アジア競技大会開催時に開催されます。しかしながら、アジア競技大会がコロナのため延期されたため、急遽、アジア選手権が開催されることとなり、総会もここで開催されました。

ARFの会長等の役職の任期は4年間であり、今回、会長、副会長の選挙が行われました。

会長には、Chen Chunxin (CHN) が1人立候補して、承認されました。

副会長には、Vahid Moradi (IRI)、Fay Ho Kim (HGK)、PROPARNPONGS POCHANASOMBURANA (THA) Semin Oh (KOR)、Masakuni Hosobuchi (JPN) の5名が選挙により選任された。

また、長年、ARFの活動に顕著な功績のあったNicholas Ee (SGP) 副会長に、ARF名誉メダルが贈呈されました。Nicholas氏は、これまで、ARF Umpiring Committee chair、World Rowing umpiring commission memberも務めていました。



Chen Chunxin (CHN)



Vahid Moradi (IRI)



Fay Ho Kim (HGK)



**PROPARNPONGS
POCHANASOMBURANA (THA)**



Smin Oh (KOR)



**Masakuni Hosobuchi
(JPN)**



Nicholas Ee (SGP)

6 おわりに

年度当初には予定されていなかった大会が、アジア競技大会の延期に伴い、急遽、シニアとジュニアの選手権として、タイローイング連盟のご尽力により開催されました。

日本からはジュニアのみの参加でしたが、4種目に出場して、金メダル2個、銅メダル1個を獲得し、実りある大会でした。

この4年間、ARFの会長国であったタイボート連盟は、毎年、国際大会を誘致し、開催してくれました。

日本ローイング協会としても、海の森を有効活用しての国際大会開催に向けた検討、取組を推進することが求められています。

今大会、シニアの参加はなかったのですが、9月に中国杭州で開催されるアジア競技大会での日本チームの活躍を期待しています。

本大会への参加にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝します。